



品川シルバー大学同窓会

2021 年 11 月 24 日

第 94 号

# 会 報

品川シルバー大学同窓会 事務局  
TEL 070-8412-0523  
ssu.dosokai.jm@gmail.com

見学会・講演会のメールでの申込みは ssu.dosokai@gmail.com (問合せ080-6634-6797)

## 第 2 回講演会報告 その 2 (区民プロデュース型講座)

講師：大江戸歴史散策研究会 代表 瓜生和徳

○場 所：中小企業センター 3 階

レクリエーションホール

○演 題：

戦国三英傑第 2 回 豊臣秀吉の虚像と実像 1

○日 時：2021 年 9 月 7 日 (火) 14:00~16:00

○参加者：49 名

○演 題：

戦国三英傑第 3 回 豊臣秀吉の虚像と実像 2

○日 時：2021 年 9 月 22 日 (水) 14:00~16:00

○参加者：49 名

### <第二・三回のまとめ>

瓜生 和徳

戦国時代を象徴する武将、『戦国の三英傑』織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の魅力は何処にあるのか、はたして今まで考えられていたイメージは本当なのか、この「戦国の三英傑」の虚像と実像に迫る講演の第二回と第三回は、豊臣秀吉です。秀吉と言えば、ボロボロの着物をまとった貧乏百姓とされていますが、実はそれほど貧乏ではなかった、それよりも裕福な百姓だったのでは、とさえ言われています。後世の太閤記などが、ただの農民ではなく「貧乏」農民から天下人まで成り上がったと誇張したようです。誇張した例は、墨俣の一夜城を「一晚」で完成させたことや、刀狩り令で没収した刀で、大仏を建立したなど、少しオーバーに脚色した例は多くあります。それも誰もが憧れる日本一の成り上がり

スーパーヒーローを楽しむためのものだったからなのです。

また、秀頼は本当に秀吉の子なのかという最大の疑問？ 実際に秀吉の 16 人の側室の中には、側室になる前や後に、妊娠経験のあるものが多くいたことから、茶々＝淀殿だけが、なぜ 2 人も秀吉の子を産めたのか、また、淀殿の秀頼懐妊時期が、秀吉は朝鮮出兵で福岡にいたことから、淀殿は福岡に行ったのか。しかし、淀殿が福岡へ行ったという資料は見つかっていないことなど、疑わしいことが多くあります。

そして、豊臣家崩壊のきっかけとなった朝鮮出兵。2 度にわたる朝鮮への侵略戦争ですが、後世にこの侵略戦争を間違ったことと、批判的な説明が見られないのはなぜなのでしょう。これは、明治維新後、秀吉の功績を再認識する機運が高まり、とくに朝鮮出兵は皇威を発揚させたものとして、江戸時代にみられた否定的評価を一挙にくつがえしていきました。秀吉の對外派兵は、単なる過去の一戦争という位置づけを越え、現実の仮想敵国＝清国と対峙するうえでの重要な国民的記憶として再度位置付けられることになったのです。秀吉は百姓出身なので、代々の家臣はいませんでした。家を守るというよりも、秀吉おじさんを助ける、秀吉様に付いていく、と言ったように秀吉のために尽くす家臣ばかりでした。豊臣家は秀吉が、天下人になってから作られた「お家」だったことから、できてからの期間も短くお家のために尽くす家臣群の土台が作られぬまま、秀吉は亡くなってしまい、豊臣家家臣軍団が脆弱だったことが、豊臣家が継続できなかった要因と思われます。豊臣家は滅びるべくして滅びたと言えます。しか

し、農民から太政大臣になった日本一のスーパーヒーローは、秀吉をおいていないことは、日本の歴史に燦然と輝く金字塔でしょう。



#### ひとことーその1

- ・秀吉の弟の存在をあまり知りませんでした。秀吉の業績に弟の力が大に関係し、秀吉より知的には優れていたように思われます。秀吉がもっと生きていたら、豊臣の歴史は変わっていたことは間違いないでしょう。血液型の話は意外でした。学校で歴史が好きになれなかった私にとって、大変興味を持つ機会をいただきました。
- ・新しい切り口の説明で解りやすく面白い。歴史は文献でないと、正確なことが分からないことが分かった。
- ・秀吉がちゃんとした農家の生まれということにびっくりしました。
- ・名門の女性好みと、官位への欲がとても強かったことがよく分かりました。天下を取った後の秀吉は、普通の男になってしまったとのお話面白く拝聴しました。
- ・楽しく拝聴させていただきました。
- ・先生のクイズが良かった。初めて秀吉がO型と知り、又ひとつ物知りになれた感じがしました。この講義が聴けて良かったです。
- ・とても勉強になりました。いつも面白く毎回楽しみです。
- ・秀吉が征夷大將軍となり、豊臣幕府を開かなかった理由が分かりました。相変わらず教科書に載っていないお話が多く、興味深く聞かせてもらっております。
- ・先生がマスクしており声がこもり聞きにくかった。

#### ひとことーその2

- ・秀吉は魅力的な人物ではありますが、「明

入」まで考えるようなリーダーでは、民衆がこまります。三成も止められなかったでしょうから、早死にしてくれればよかったかなと……。

- ・大変勉強になりました。19才で、196cm160kgも秀頼があったなんて、びっくりしました。
- ・今まで知らなかった各武将の活動、心の動き、他武将と関係等、非常に詳細な説明に大変参考になりました。
- ・豊臣秀吉140cm(1537年～1598年)、当時(戦国時代)の男性の平均身長は157cm、秀吉の身長が140cmだったそうですが、今の時代を考えるとかなり低かったんですね。
- ・歴史ではとても語られることがない詳しい内容で勉強になりました。現代の政治と重なりました。私利私欲があまり感じられないことに共感した。
- ・加藤清正や福島正則がなぜ家康側についたのが不明でした。『秀吉の家臣だったが、豊臣家の家臣ではなかった』からでした。不仲でした。面白く拝聴致しました。
- ・加藤清正など戦国武将の実像について、詳しい説明が有り「へー」という驚きがあった、実に興味深く聞くことができました。
- ・もう少しゆっくり聞きたかった、内容が盛りだくさんすぎる。
- ・足輕の年収20万円はいかに少ないが、他に収入があったのでしょうか。

#### ○演 題：

戦国三英傑第4回 徳川家康の虚像と実像1

○日 時：2021年10月8日(金) 14:00～16:00

○参加者：49名

#### ○演 題：

戦国三英傑第5回 徳川家康の虚像と実像2

○日 時：2021年10月27日(水) 14:00～16:00

○参加者：49名

#### <第四・五回のまとめ>

瓜生 和徳  
戦国時代を象徴する武将、『戦国の三英傑』織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の魅力は何処に

あるのか、はたして今まで考えられていたイメージは本当なのか、この「戦国の三英傑」の虚像と実像に迫る講演の第四回と第五回は、徳川家康です。家康と言えば、たぬきのようにメタボ腹を抱えた中年のおじさんで、腹黒くてずる賢い人＝「たぬき親父」というあだ名で呼んだりされています。棚ぼたで天下人になれた。ラッキーだった。などと言われたりもしています。このようなことから、家康は三英傑の中で、一番人気のない武将として扱われています。

しかし、昨今、家康だから天下が治められ、265年続く江戸幕府が成立した。大都市東京は、家康によって造られたなどと評価されています。江戸幕府が崩壊して、倒幕派の明治新政府が、徳川幕府を否定することで、新しい時代を正当化する必要があったことから、家康の違ったイメージが造られていったのです。盤石の徳川幕府はなぜ成立したのか。その訳は、徳川家＝松平家の家系に由来します。家康は松平家九代当主です。初代から先代の八代までに、松平家を支える家臣軍団（分家衆と譜代衆）がしっかり形成されていたことにあるのです。これを分家衆は「十八松平」、譜代衆は「安祥譜代」、「岡崎譜代」と呼ばれています。桶狭間の戦い以降、小田原征伐の後、秀吉から関東に移封されるまでの8年間に三河を中心に領主として、家臣軍団にしっかりと治めさせた経験が、江戸に生かされ、天下統一へと結ばれたのです。

家康が亡くなった後、家康を支えた家臣たちを、徳川四天王、徳川十六神将などと称して、神格化していきました。そうした家臣たちがいたからこそ、家康が天下を取れ、平和な戦のない時代が迎えられていることを広く庶民に浸透させることで、徳川の世に畏敬の念を持たせていきました。家康は幼少から人質になっていたことから、周りには大人しかいなかったことで、常に実力者に恐れ、自分や家臣の身を守ることに決した人生を送ろうとしていました。そして今川義元、織田信長、武田信玄、豊臣秀吉と次々と恐れる人がいなくなったその時、天下を考えるようになったのです。家康には天下をとるという野心は、秀吉が亡くなってから芽生えたと言われていま

す。最後まで生き残った「徳川家康」だからこそ、長く続いた戦乱の世は治められ、その後の平和な時代＝江戸時代が265年続くことになったのです。

#### ひとことーその1

- ・人物の性格など、小説・映画とはちがった面が伺えて興味深かった。
- ・家康は新しい物好きだった、徳川領国に東西対立があったとか、泉岳寺は今川家と関係があった、などなど、初めて知りました。面白かったです。
- ・人のつながり、人に対する思い、人間関係がいつの世も、歴史を動かす。それにしても基礎を作った家康のすごさ、偉人です。
- ・再来年の大河ドラマは「松平家」を中心に描くことが紹介された。戦国の世から264年の平和な世をどのように描くのか、今から楽しみだ。
- ・毎回、武将と重臣たちの相関と系譜に感じ入っております。歴史の中に登場する人々の何と因縁に満ちたつながりがあるのか、血統が時を経ることで思いもよらない出会いがあると感心しました
- ・例えば「家康は短気であった」、またこれまでの常識が覆されました。まるで当時の様子を見て来たかのように話される、講師の博学さに驚かせれました。
- ・話し方が非常に聞きやすい。細分にわたる人間関係が良く解った。
- ・系図は今後のために助かります。それにしても同じような名前で、これ又記憶できそうにありません。



#### ひとことーその2

- ・とても解り易い説明に機会があったら、又参加したいと思います。ありがとう御座い

ました。

- ・大変分かり易く、歴史の事を再読したいと思いました。天皇家の血筋の話が大変勉強になりました。
- ・あっという間の時間でした、毎回楽しみにしておりました。タイムスリップして江戸時代に行ってみたいです。
- ・家康に仕えた武将の普段知られてない様な詳しい経歴が聞けて大変良かったです。
- ・前回に続き、徳川四天王、三傑の人物像、楽しく拝聴できました。
- ・5回参加させていただき有難うございました。角度の違う歴史観を教えていただいた様に思います。
- ・時代劇や小説で描かれる武将とひと味違った人物像を知り、楽しく講義を受けました。
- ・初めて参加させて頂き大変楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました、次回も参加したいです、とても勉強になりました。
- ・瓜生先生の5回にわたるご講演とても楽しく興味深く聞くことができました、まるでNHKの歴史番組「ヒストリア」を見ているようでした。これまで学校などで習ってきた史実が次々に覆され、歴史研究が随分と進んでいることが実感されました、ありがとうございました。
- ・徳川家康は自分の家臣の身を守ることを思っていたという事、海外にも目を向けた人だったという事が分かりました
- ・内容が毎回盛り沢山で回数を増して頂きたい程でした。筆記しきれず残念でした。ありがとうございました。三英傑の人となり解り、充実した講座でした。
- ・瓜生和徳のお話またききたい。
- ・できましたら次回違うテーマでの歴史講座を企画していただければうれしく思います。テーマとして(1) 源平～鎌倉幕府、(2) 承久の乱、(3) 建武の新政～室町幕府、(4) 応仁の乱、(5) 江戸幕府末期における各勢力のせめぎ合いの詳細、(6) 関ヶ原の戦い、などです。よろしく願いいたします。
- ・資料代を払っても資料が欲しかった。

感想文「戦国三英傑と重臣たち」を受けて

瓜生和徳先生の「戦国三英傑」のご講義を拝聴しました。結論を先に述べてしまうと大変面白く勉強になりました。今まで抱いていた3人の印象も少しずつ変わったようです。

このご講義は品川区主催の区民プロデュース型講座で中小企業センターを会場に、8月27日から10月27日まで5回シリーズとして開催されました。コロナ禍の緊急事態宣言発出により参加者を制限せざるを得なくなり、応募者118名のうち49名が受講、何と2倍強の競争率だったのです。

講師は、大江戸歴史散策研究会代表の瓜生和徳先生で、先生の絶妙かつユーモラスなお話は飽きることがありません。語られる3人は先生のごくごくお親しいご親族のようで、それもまた好ましいことでした。



織田信長はうつけ者で冷酷無比な人物などと他の武将とは一線を画した強烈なイメージですが、今日ではそれが何ら根拠のないものに過ぎない。彼はファザコンでありマザコン、部下に尊敬して欲しい、万人に認めて欲しい、あまりにも無防備に人を信用するから相手は疑心暗鬼に駆られて裏切ってしまう。これはなんとも悲しい。

豊臣秀吉は、貧乏な水飲み百姓との定説ですが、地主並みの百姓でちっとも貧しくない。おねとは当時めずらしい相思相愛で結婚。出世がしたい、美味しいものを食べたい、美しい女を自分のものにしたいという私欲がすべての原動力。その私欲だけで農民から天下人まで登り詰めた日本史上最大のスーパー・ヒーロー。

最後に徳川家康といえば、人質となっていた今川家において当時としては最高の教育を受

けた。狸親父なんかではなく、短気で新しもの好き、日本で最初の物はすべて家康からではないか、など先生のお話に興味は尽きませんでした。

3人には当然のことながら今に名を遺す重臣たちがいたわけで、その重臣たちの一人ひとりに、また興味深いあれこれがあったと簡潔にして丁寧な解説でした。

歴史は常に勝者によって作られます。また、作家のものでもあります。私たちは昭和の作家の描いた人物を読んできましたが、これから20年後、30年後の彼らの人物像はどう変化しているのでしょうか。ちょっと読んでみたいですね。

法橋久子（2015年入会）

◆東京2020オリンピック・パラリンピック  
閉幕に際して思うこと◆ 2021.09.10



夢の大橋の聖火台

「多様性と調和」を理念とした東京2020オリンピック、また理念に「機会均等と完全参加」とした東京2020パラリンピックが閉幕しました。コロナ禍、非常事態宣言が発出されて外出自粛、原則無観客でおこなわれたためもっぱらテレビ観戦となりましたが、両祭典の期間中、選手たちによるすばらしいパフォーマンスに感動と感銘、勇気をもらう日々が続きました。オリンピックでは各種競技で史上最大数のメダルを獲得した日本選手の活躍に連日の歓喜・喝采する日々となりました。パラリンピックでは日本選手ばかりでなく世界各国の選手が身体的苦難を乗り越えて鍛錬した躍動的な競技に感動・感銘させられました。「みんな違っていい」「できなくても支え合うから大丈夫」の精神で国籍を超え、身体的不自由を克服した選手同士が和気あいあいと

結びつき合うほほえましい映像をたくさん目撃できました。

テレビ目前でくりひろげられた選手達による「善意と融合」。いまなお地域紛争が絶えない厳しい現実ながら、かすかながら人類互いに親しみあう平和な地球づくりの可能性を彷彿とする場面がありました。

コロナ禍、非常時の開催となった今大会に対し、国内では開幕後もなおも政治的意図を持って開催に批判的な人々が存在します。オリンピック開催して「よかった」57%、「よくなかった」35%（日本経済新聞世論調査）という結果が示すとおり、私は何事にもどこからか不平・不満が噴出する我が国は多様性に富む健全国家のあかしではないかと自ら納得させています。「国民に批判と反対を封じ服従と賛同を強いる」強権国家より、自由に意見を口にできる我が国は考え方や行動が偏ることのない普遍的調和がとれた正常国家といえるのではないのでしょうか。

顧みれば、前回の東京1964オリンピック・パラリンピックは、日本国中を熱狂させ、戦後復興を世界に知らしめたイベントとして誇り高く語り継がれています。苦難と批判が渦まくなかで無観客、マスク着用など数々の不自由な制約の中で開催した東京2020オリンピック・パラリンピックは、「国家間・民族どうしの融合と多様性の兆し」をテレビ視聴している世界の人々に映像から感じたのではないのでしょうか。さらに選手達の数々の感動プレイや献身的に運営に携わったボランティアのパフォーマンスなどとあいまって、いつの日にか、コロナ禍という難行を克服遂行したイベント、レガシー（遺産）となって多数の国民の間に絶賛合意が形成されていくものと確



お台場のオリンピックマーク

信しました。

春日利文（2015年入会）

### 海外旅行での経験(その4)

その他

①人種差別的なことも味わった。パリのホテル、バイキング式の朝食で部屋が大きく2つに分かれていた。ボーイが奥の部屋へ案内、見ると手前が白人、奥が有色人種だ。人種によって分けているのか？と聞くとそうではない、こちらの方が居心地が良いと思い案内した、手前の部屋でもOKです、との答え。イギリス・ヨークで国際会議の一環で地元の鉱山を見学。坑内から上がってきてシャワーを浴びたが、ここでも自然と？一つのシャワールームが白人、もう一つが有色人種となっていた。南アフリカ・ヨハネスブルグ、アパルトヘイト末期に行ったが日本人は、不名誉な？「名誉白人」として扱われた。

②習慣の違い。ドイツ・ボンで業界団体と会議、長ーい昼食となりボリュームたっぷりのステーキとデザート甘い巨大なケーキ、さらにドイツ人は最初からビールを飲んでいった。それを聞くと、半分冗談だろうが、食事時、日本ではお茶を飲むだろう、フランスではワイン、ドイツではビールだ、と言われた。また、日本のビールには、麦芽とホップ以外に副原料として、米やコーンスターチなども使われているが、ドイツでは麦芽とホップ以外は使わない、それ以外のものを使ったらビールではないとのこと。

保坂駒雄（2011年入会）

川柳雑詠

窓際の陽を背に浴びてコックリコ	婿殿は親のめがねに叶う人	少子化に	期待など
きくえ	きくえ	大臣だけは	出来ないけれど
		増えている	期待する
		のぼる	のぼる

あとがき

新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」が日常の一部となり、多くの方が未だご不安と向き合われている中で、緊急事態宣言が解除されました。最近の東京都の感染者は減少傾向にありますが、油断することなく、外出時には、引き続きマスクと手指の消毒を徹底しましょう。区民プロデュース型講座の講演会も無事終了し、安堵しているところです。参加して下さった会員の方々に感謝いたします。今後も出来るだけ行事を開催するように努力をしてみたいと思いますので、よろしくお願い致します。

(K.M)

### 講演会・見学会のご案内

#### ★A講演会(第3回)

演題 瓜生和徳の戦国三英傑総集編  
講師 大江戸歴史散策研究会代表  
瓜生和徳先生

日時 2021年12月24日(金)

受付 13時半～16時  
13時～13時20分

場所 きゅりあん  
7階イベントホールAB

#### ★B見学会(第3回)

「瓜生先生のガイドで歩く明治神宮」

日時 2022年1月24日(月)

受付 ①午前10時～12時 限定30名  
②午後1時～3時 限定30名  
③9時30分～12時 50分迄  
④12時30分～12時50分迄

集合 JR原宿駅西口  
会費 500円

詳細内容・申込み方法

同封のチラシを参照ください。  
多数の方のご応募をお待ちしています。

締切日 2021年12月3日(金)

#### ★今後の行事予定

(詳細は1月号にご案内)

#### ★A講演会(第4回)

演題 歯と健康について

日時 2022年2月25日(金)  
～長生きは唾液で決まる～

★B見学会(第4回)バス旅行  
日時 3月予定